

## 続・大学授業科目としての北米文化論

松本青也

### 1. はじめに

異文化の価値観に触れることで、私たちは初めて自文化の価値観に気付くことができる。北米文化論の授業で紹介するアメリカの社会現象を通して、学生達は日本人とは違うアメリカ人の価値観に触れ、今さらながら自分たちの文化を内省し、やがて異なる2つの文化の間で、何らかの価値判断を下すことになる。

大学授業科目としての北米文化論について、前回（2010）は学生の受講による意識の変容の度合いと文化の流動性の認識に関する調査結果を踏まえ、その困難点と対応策を考察した。引き続き今回は、同じ科目を履修した学生が授業を受けながらどのようなことに気付き、受講を終えた時点で現在の日本人の価値観をどのようにとらえ、それが理想とする価値観とどれほど隔たっていると考えているかを調査した。

### 2. 現状と理想についての調査

2010 年度後期から 2012 年度前期までの2年間に「比較文化・日米」及び「地域文化・北米」を受講した学生計 445 名を対象に、15 回の授業終了後、記名によるアンケートを実施した。内容は、下の8つの対照的な CTR について、現在の日本人の一般的な価値観と理想とする価値観がそれぞれどこに位置すると思うかを、「1. 左寄り」から「5. 右寄り」までのリッカート尺度で回答させ、その判断の具体的な理由について例を挙げて説明させた。

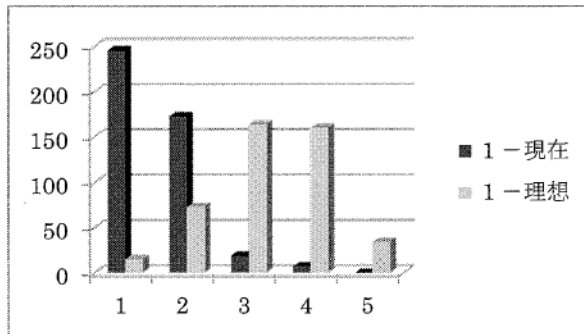
- |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |    |
|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----|
| 1) 謙遜 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 対等 |
| 2) 集団 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 個人 |
| 3) 依存 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 自立 |
| 4) 形式 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 自由 |
| 5) 調和 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 主張 |
| 6) 自然 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 人為 |
| 7) 悲観 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 楽観 |
| 8) 緊張 | 1 | ----- | 2 | ----- | 3 | ----- | 4 | ----- | 5 | 弛緩 |

1	-----	2	-----	3	-----	4	-----	5
左寄り		やや左寄り		どちらとも言えない		やや右寄り		右寄り

### 3. 結果と考察

8 つの対照的な志向のそれぞれについての結果の考察に加えて、平均値と同様の方向で回答した学生が指摘した理由と、多数とは違う方向で回答した学生が指摘した理由の例を、省略以外は原文のままで挙げる。最初の括弧内の記号（A→B）は、Aが現在の日本人の一般的な価値観、Bは理想とする価値観として、その学生が選んだ値である。

1) 謙遜志向 対 対等志向 (平均値：現在は1.5、理想は3.3)



アメリカ人の対等な意識に触れると、敬語や待遇表現などの背景にある日本人の謙遜の意識が行きすぎたものに見えるが、やがて謙遜する気持ちに含まれる奥ゆかしさや慎み深さは、やはり美德であり、全く対等という意識は望ましくないと考えられるようになる学生が多い。そして日本ではお互いが謙

遜し合うことでこそ、対等で平和な関係が成立しているのであって、相手が逆に対等な文化を背景としている場合は、こちらが態度を切り替えて対等な意識で立ち向かう必要があることにも気付いていく。

① 同方向の学生 (420 名：94.4%) が挙げた理由の例

・(1→4) 私自身、高校時代バレンタインに友チョコをやった。経験が浅いなりに頑張って自信作ができあがったとしても、渡す時は必ず「まずかったらごめんね」「あんたが作ったのよりしょぼいけどー」などと言っていたことを思い出した。この授業を受けた今なら、胸を張って「これめっちゃ自信作！食べてみ！」と言えるのに。自分を卑下して相手を上げるのではなく、相手に敬意を示すことで関係を築けばいいのだと思う。この 2 つは全くの別物であるのに、今の日本はその認識が誤っていて、あやふやな状態で使用し続けているように感じられる。ここは正すべき所であると思う。

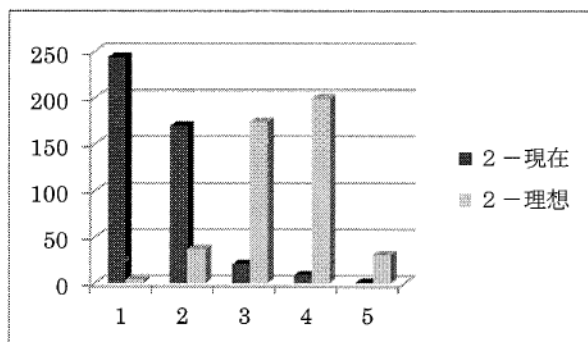
・(2→4) 先日、学校帰りに名鉄バスに乗っていて、運転手がいちいち「次は〇〇に停まらせていただきます。」とか「お降りの方がいらっしゃいませんか、通過させていただきます。」とかバスがバス停で停まるのも、降りる人がいなければ停まらないのも当然なのに、そこまでへりくだる必要はないのではないかと思った。いろいろな場面で相手をうやまってへりくだることができるのも日本の良いところだが、もう少し対等に考えても良いと思うので理想は4。

・(1→5) 私の近所では、よくおじさんやおばさんが畑で採れた野菜を持ってきてくださいます。そのとき必ずと言っていいほど「つまらないものですが……」と口にします。中学の時に親に「つまらないって言うなら、持ってくるなよ」と、言ってしまったときの叱責は凄まじいものでした。人間は平等であると心の底で感じながらも、日本人の振る舞い方は決してそうとは言えない。同じ文化を共有する間柄であれば良いが、国際交流の場では自らを弱いものと認めてしまうことになる。もう少し自分の良い面を相手に表現していく力が必要だ。

② 多数とは違う方向の学生 (25 名：5.6%) が挙げた理由の例

・(4→1) 少なくとも、私の周りでは、謙遜志向が強いとは感じない。アルバイトにおいて、上司にいわゆる「ため口」で友達のように話をするアルバイト仲間を見ていると「謙遜とは程遠いなあ」と思う。そして、問題なのは、彼らが、対等志向という主義に基づいて、振る舞いをしているわけではなく、純粹に、無教養なだけである点だ。だから、正確には、現在の社会は、対等志向というわけではなく、とりわけ、若者については「無教養志向」、「だらしない志向」であると言わざるを得ない。ただ、若者たちが、アメリカの対等志向の様な主義を獲得したとしても、私はそれをあまり、うれしく思わない。私は古臭いかもしれないが、他人の気持ちをおもんばかり、努めて、自分を主張しない謙遜の姿勢が好きだ。それが、日本人の美德であると思う。

## 2) 集団志向 対 個人志向 (平均値：現在は 1.5、理想は 3.5)



学生達は幼稚園から高校まで、常に集団の一員として行動してきたが、北米文化に触れることで、それが世界の常識ではないことに気付く。しかしその一方で、効率や安心などの点で、集団行動や集団としての一体感や連帯感が貴重になる場合が多いことも認めている。

### ① 同方向の学生 (424 名：95.3%) が挙げた理由の例

・(1→3) 高校時代に僕は吹奏楽部に所属していたため、部活動をしている時は、楽器のパートごとに集団行動をすることが多かったのですが、そんな中で「赤点を取った者がパート内で出た場合、連帯責任としてパート全員でランニングをする」という決まりが部の中で決められたことがありました。このことから、私は「日本人は集団志向が強いなあ」と思うようになったのです。確かに集団行動を通じて、お互いに助け合い、高め合っていくことは大切なことですが、なんでもかんでも連帯責任にしていこう「集団志向」は、間違っていることだと思うのです。

・(1→4) 小学生・中学生・高校生時代は、クラスが割り当てられ、1年間同じ生徒と過ごさなければなりません。だんだん友達との仲が深まっていき、仲良しグループが出来ます。仲良しグループが出来たら、ずっと一緒に行動しなければなりません。仲良しグループ内から冷たく対応されると、不安になってしまいます。自分の考えが一番ではなく、集団の決定の二の次です。集団と相反する個人行動をしてしまうとしりぞけられて、いじめや仲間はずれにも発展します。個人を大事にするという前提で集団を大切にすれば、もっといい関係が築かれると思います。

・(1→3) アメリカに留学した際に驚いたのは、生徒が一人で行動したり、昼食を食べている姿でした。日本でその光景を見たら友達がいなくて子なのか、いじめられているのかとも思ってしまう。そう思うと、いかに日本人は集団行動が習慣化しているのかと気づかされました。

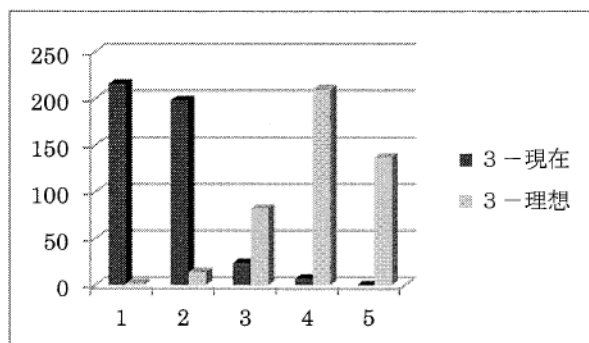
・(2→4) 皆と一緒にいてもいなくても個性を大切にしないと、自分が輪の中に埋もれてしまうような、死んでしまうような気持ちになります。やりたいことをやり、好きなものは好きと言い、少し周りから外れていても、ものの見方が違うだけだと考えたいです。それゆえ、アメリカのようにプライバシーをもち、異質なままの多様性があることを素晴らしいと思います。プライバシーは自分と他人との距離を保つのに重要な役割をもちます。日本人にも、私が私でいられる時間が必要だと考えました。

・(1→4) 中学の時、体育祭の練習を全校で校庭に集まってやりました。競技の入退場の流れを確認するのはともかく、校長や町長の話の前後の礼や自分の軍が優勝した時の喜び方で練習させられました。優勝した時の喜び方に至っては、元気よく軍の全員が喜ばないと、炎天下の中何回もやり直しさせられました。1人ができなければ全体の責任にさせられるのは日本の集団志向の悪い点だと思います。個々は違っても当然だし、良い意味でもっと個人志向が重視されるといいなと思います。

### ② 多数とは違う方向の学生 (21 名：4.7%) が挙げた理由の例

・(4→2) 小学生の頃は町内の繋がりが厚く、悪いことをしたら親じゃなくとも地域の人でも叱ってくれ、いつも挨拶をし、母が入院し、父が看病にでるため何日か姉と二人でお留守番をしたときは近所の人たちが毎日様子を見てくれた。このような依存とは違う、集団を守る、見守るという意味では、わたしは集団の目録での日本の CTR は大事にしたいため理想は 2 である。残念ながら、今の日本ではそこまでの地域の集団意識より個人を好むと感ずるため現在は 4 である。虐待児を救ってあげられないのも個人志向が増えたからではと感じる。

### 3) 依存志向 対 自立志向 (平均値：現在は 1.6、理想は 4.0)



現実と理想の隔たりが最も大きかった項目である。アメリカの大学生が自立した大人として親元から離れて暮らし、自分で学費をやり繰りするのが一般的だという情報に、日本の大学生は衝撃を受ける。振り返れば、幼児の頃の育てられ方から違っていたことに気づき、早い時期からの自立の必要性を

痛感するようである。

#### ① 同方向の学生 (433 名：97.3%) が挙げた理由の例

・(1→4) アメリカでホームステイしたとき、私はかなり大きな衝撃を受けた。たった生後 8 ヶ月の男の子に自分の部屋があり、さらにその部屋のベッドに一人で寝ていたからだ。この家族にはもうひとり 3 歳の女の子がいて、彼女もまた一人で寝ていた。就寝時、母親に「寝たくない」と甘え、駄々をこねる女の子に、母親はぬいぐるみをベッドに乗せて、「みんな寝るのよ」となだめて部屋から出て行った。私はその様子を一緒に部屋で見ており、一緒に寝てあげたらいいのと思ったが、母親に促されてしつこく部屋から出た。この時は少しひどいと感じたが、アメリカ人の自立志向は生まれたときから始まっているのだろう。

・(2→4) 大学 1 年の春休みにアメリカ人の友達と 2 人で計画を立て、父が住んでいるドイツに遊びに行くことになった。その時私は父にホテルとか観光地の情報などは調べてもらえばいいと考えていたのだが、アメリカ人の彼女にそう伝えると「私たちの旅行だから私たちだけでやろう。両親に自分たちで全てできるということを証明したい」と言われた。その時私はすごく恥ずかしく感じたことを覚えている。彼女はドイツについてから、ほぼすべての場所で英語が通じるのにもかかわらず「ドイツ語で頑張ろうよ」といってガイドブック片手に頑張っていた。彼女を見習おうと思い、私も一生懸命ドイツ語を話したし、迷った時も父には連絡せず自分たちでタクシーを拾いホテルまでたどり着いた。日本に帰国してから母に「なんか強くなったね」と言われたことがうれしかった。

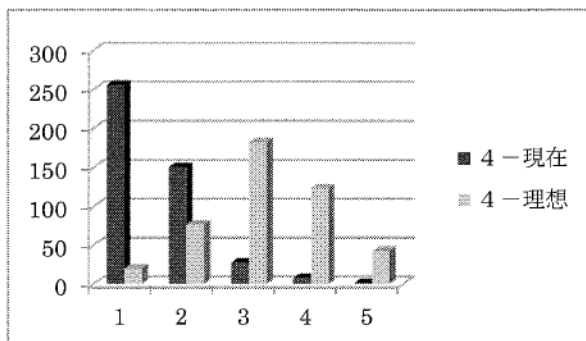
・(2→4) 以前アメリカのドラマを友人と観ていて、主人公の女性が気になっていた格好良い男性が実家住まいということが判明し、一気に幻滅するシーンがありました。私たちの意見は、「実家住まいなら堅実な生活をすれば貯金もたまるとし、結婚相手でもないなら親と同居していても全然構わないよね」というものでした。もっと自立を促す社会になれば、引きこもり、ニートが少なくなりそうです。

・(2→4) わたしは典型的な依存志向の日本人だと思う。学費も定期代も携帯電話代もすべて親に頼っている。もちろん大学も自宅から通っている。ホストマザーに、大学を一時間かけて自宅から通っているということを話したらとても驚かれた。アメリカではほとんどが、自宅を離れて下宿生活をするのがあたりまえらしい。

#### ② 多数とは違う方向の学生 (12 名：2.7%) が挙げた理由の例

・(1→1) 私は両親にすごく甘えている。学費は払ってもらっているし、定期代も出してもらっている。母親は、子供が就職するまではこれが親の仕事だと言ってくれている。そういう環境で育ったせいか私も金銭的な面では、親に頼るべきだと思う。大学に入ったら家を出て、家賃と学費に追われる生活をするというのはいまいち納得がいかない。勉強にも支障がでるのではないだろうか。多少の手助けが必要だが、学生の間は十分に甘え、就職したら今までの恩を返せば良いと私は考える。

#### 4) 型式志向 対 自由志向 (平均値：現在は 1.5、理想は 3.2)



日本には意味のない型が多いという意見が多かった。確かに型を教える側が、その意味を伝えず、ただ、伝統的にそうするものだとして強制するだけでは反発を招く。残すべき型については、型に込められた思いを正しく伝える必要がある。その思いを知ること、型の素晴らしさに気付く学生は多い。

##### ① 同方向の学生 (379 名：85.2%) が挙げた理由の例

・(1→3) 日本人はとにかく、基準を欲する。例えば、会社関係の手紙を送る際に、前文を付け加えて送るという習慣がある。しかもその前文は長々しく、堅苦しい表現であり、どれも似たり寄ったりのものである。さらに言えば、手紙を書いた本人にそのような考えはなく、ただ型に従って書いただけなのである。実際、私は前文の意味など分からずに手紙に付け加えたりする。それが常識なのだ、と言われたら従うしかないのだ。しかし年賀状については、中身のない習慣に疑問をもつ人、特に若者が増えていることは確かなのである。年配の大人たちは、「礼儀がなくなっている」と憤りを感じるかもしれないが、私にとっては中身のない習慣を永遠と繰り返すことは礼儀云々というよりも、無意味な行動に見えてくる。そのような考えをもつ若者が増えているというのは、「形式志向」からの脱出を試みている日本人が垣間見える。

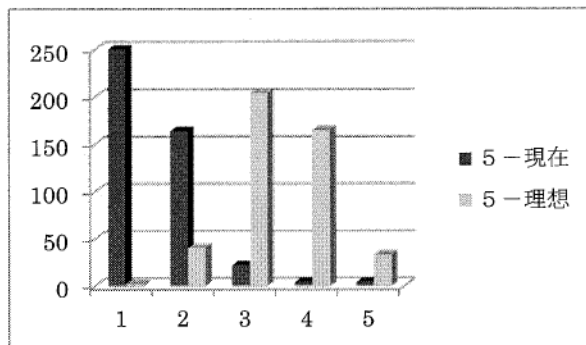
・(1→5) 中学の入学式の日、みんなの姿をみて“おにぎり”みたいと印象を受けたのを今でも覚えている。みんな黒髪、白襟セーラー服、白靴下、白スニーカーを身にまとい、色が無い。派手な髪飾りをしたら先生に取り上げられ、先輩にも目をつけられる。この型にはまった「形式志向」がすごく嫌いだった。高校生ではバイトがすごく厳しく、働く前に接客八大用語を言わなければならなかった。決められたシナリオ通りの接客をしなければ店長に怒られた。きっと社会に出て何らかの形で「形式志向」にとらわれながら生きていかなければならないのだろう。

・(2→4) 私は大学に入るまで、茶道を習っていました。先生がおっしゃったように、所作のひとつひとつが美しいと思います。決まった型通りに動くのですが、それでも男性と女性で感じるものは違いますし、そもそもお茶を点てる人が違えば、雰囲気は変わります。おなつめからお茶勺で抹茶を取り出す際も、二回掬うことは決められていますが、分量はその人のさじ加減です。点てられたお茶の味まで型通りにはいきません。日本の CTR にはまっていますが、その人なりの個性が出るので、完全な自由である必要はないのではないかと思います。故きを温ねて新しきを知るという中国の言葉がありますが、これも日本の CTR を上手く表現していると思います。

##### ② 多数とは違う方向の学生 (66 名：14.8%) が挙げた理由の例

・(4→3) 決まり文句 (例えば、挨拶) にはしっかりとした意味があることを知り、日本の型を素晴らしく思いました。他にも日本の型で素晴らしいものがあります。それは空手や剣道の武道です。私は中学まで空手、高校で剣道をしていました。その二つのスポーツは必ず試合前に礼をします。今までは礼をしなければならぬから礼をしていたり、みんながしているからそれに合わせてしていたりしました。あるとき、父から礼は「相手が自分と戦ってくれることに感謝する」ためだということを教えてもらってから、そう思っ行っていきたくて考えました。そうすれば、型にはまって日常化してしまったことでも気持ちをこめてできるからです。

5) 調和志向 対 主張志向 (平均値：現在は 1.5、理想は 3.4)



小さな頃から教育の場で周りとの調和することを教え込まれたという感想が多い。集団として効率的に動けるように、不揃いな個性や意見を隠すことが求められた。それでいて就職活動などでは、個性があって自分の意見が言える人材が求められるという矛盾を指摘する。

① 同方向の学生 (416 名：93.5%) が挙げた理由の例

・(1→4) アメリカのフードコートに行ったとき、具やトッピングなど自分で何でも選ぶ形の店が多いことに驚きました。セットがあれば楽なのだと思いますが、日本人のように“おまかせ”がアメリカでは通用しないのだなとわかりました。私のバイト先ではデザート系のトッピングが選べるものがあるのですが、ときどきお客さんに「何でもいい」とか「あなたが好きなものにして」と言われることがあり、アメリカ人と真逆でおもしろいと感じました。アメリカのように一から全て選ぶ形の店は日本人にとっては面倒に感じ、あまり受け入れられないのではないかと思います。また、アメリカの語学学校での授業中、日本人はむやみに発言したりしないのに対し、何かあるたび質問したり発言したりする生徒との差が歴然としていて、日本人は本当に主張ということが苦手なのだ実感しました。先生が「一番嫌いなのは沈黙！」と言っていました。授業中は黙って先生の話聞くという日本の習慣に慣れているため、というよりそういうものだと思っていたので、日本とアメリカは本当に対照的だと思いました。しかし自分の意見をはっきり主張することは日本人が一番身につけなければならないことだと思っています。

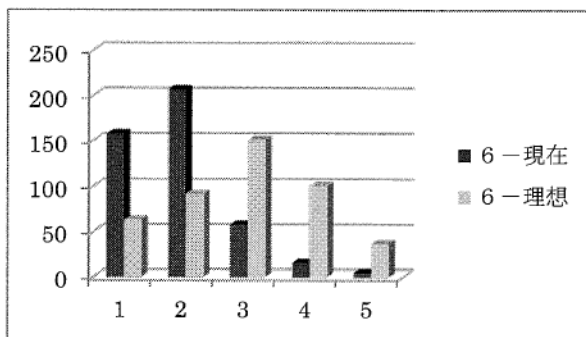
・(1→4) **KY** という言葉が流行したとおり、空気を読むことができない人は、駄目な人であると思われる。答えを求められても曖昧に濁して、笑ってその場をしのぎます。「はい」「いいえ」よりも「どちらでもない」を選択することを好みます。相手を傷つけないように、いつも気にかけて発言をしていると思います。しかし、最近では「**K**=空気しか **Y**=読めない」という意味でも **KY** を使用しているそうです。周りの状況だけ読むことが得意で、自分の意見がない人は日本人にたくさんいます。そのため、日本人は自分の意見を主張することが大切だと思います。

・(1→3)「外国人がみた Nippon」というテレビ番組で、外国人から見た日本は「あいまいのかたまりだ」と紹介されていた。たしかに、日本人は外国と比べて **YES** か **NO** かをはっきり言わない。また、食事がおいしいかどうかとも言わない。しかし、それが日本の文化なのだと私は思う。主張することは相手を不快な思いにさせたり、意見に逆らっていると考え、気遣うのが日本人なのだ。一方、日本の政治界ですぐに決断をせず、先送りをするのは日本のよくない曖昧さがでていると感じる。何事も主張しない日本はいいところでもあり悪いところでもあると考える。

② 多数とは違う方向の学生 (29 名：6.5%) が挙げた理由の例

・(1→1) 確かに自分も日本特有の言葉を濁す曖昧なことを言って誤解を招き、争いになったこともあったし、親戚や祖母の家に行ったとき、何も言わなくても飲み物や食べ物が出てくる。それが自分の好ましくないものだったが悪いと思い、我慢して食べたことがあった。だが、私は日本人の、その言われたこと以上のことをしてやろうとする、相手を思う、思いやりや人情の厚さが好きだ。それが自分の好まないものだとしても、それを相手を思い我慢してでも食べるのも思いやりだ。思いやりと思いやりのぶつけ合い、それが日本人。私はこのままでよいと考える。

6) 自然志向 対 人為志向 (平均値：現在は 1.9、理想は 2.9)



四季の変化に富んだ自然を愛で、自然の流れに逆らわず、自然と共に生活してきた日本人と、人間が一番素晴らしい存在で、自然は人間が征服するものととらえるアメリカ人。両者を比べて、日本人の価値観を肯定する割合は、8項目の中で一番高かったが、自分から働きかけてよりよいものを新しく作

り出す姿勢については、見習うべきだと考えるようだ。

① 同方向の学生 (289名：65%) が挙げた理由の例

・(1→4) 日本が率先して行動に出ることはあまりに少なすぎると感じました。自然に待つことも大切だけれど、自ら行動するということもすごく大切なことであると感じます。普段の生活の中でも、待っていて自分から何も起こさず、ただ大きな問題が起こらないようにだけ気を付けるという考え方は、私はあまりよくないと思います。少しでも現状より良くなると感じるようなものだったら、失敗してもいいからせめて挑戦だけでもすべきだと思います。これから先、国際問題だけでなく、自分自身が生きていく中で、行動を起こすということが重要視されてくる気がします。一度きりの人生をより良い人生にするためにも、アメリカの CTR を少し学ぶべきだと感じました。

・(2→4) 不景気についての街頭インタビューでも、「なんとかならないんですかね」といった発言をする人をよく見ます。このような人はまさに自然志向の考え方で、状況が変わるのを待っているような気がします。私は、日本料理や伝統文化のなかにある、自然を生かすという志向はこのまま大切にしていきたいと思います。自然の流れの中でただ待つという志向は変えていく必要があるのではないかと思います。

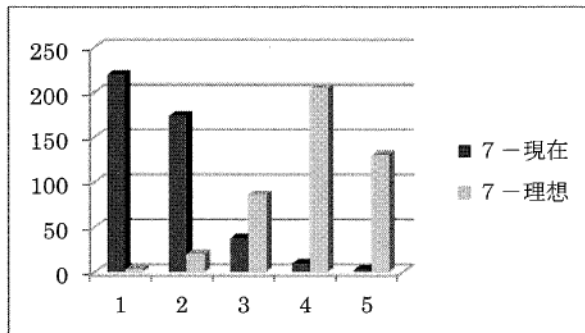
・(2→3) 日本は静かに待ち、感情主導でなるようになると考えます。アメリカでは、自ら動き行動することを大事にします。アメリカの料理は、濃い味付けで着色料でいろんな派手な色となっていて、一方で日本の料理は食材の自然の味を生かそうと、薄味だったり生だったりします。健康面で考えれば今のままで良いと思います。しかし、エスカレーターにのっているかのように何もせずに自然に物事が進んでいくのが当たり前で、自ら行動することが少ないのは良くないと思います。少なくとも良くない方向に物事が進もうとしたら即座に自分から行動できればよいのですが、いつも流れに身を任せているのではなく、少しだけでも自分から行動することを意識すべきだと考えます。

② 多数とは違う方向の学生 (156名：35%) が挙げた理由の例

・(3→3) アメリカから見ると、自然任せの日本人はアグレッシブさや開拓精神が不足していると映るのかもしれないが、このまま自然を大切にすることを日本の美德は残すべきと考える。日本は自然とさまざまな産業が調和した生き方のベストプラクティス(もっとも成功した事例)であると世界が認め、自然と心身の豊かさを見るために多くの国から人々が訪れ、いつまでもそんな国でありたいと私は考える。忍耐力は求められるがメリハリのある「待つ」という行為(自然や関係対象との調和のとり方)こそが、他国への侵略や干渉と受け取られない理想の国の在り方かも知れないと私は考える。

・(3→2) もうすぐ赤ちゃんを出産する同い年の友人は無痛分娩です。また、昔はそれほどでもなかった化粧の濃さも今の中学生・高校生を見れば、つけまつ毛につけ毛、髪の毛は茶色に染め、爪にはジェルネイルです。コスプレで制服をきている OL さんかと思うほどふけていてびっくりします。もっと自然でいいのに、と思うので理想は2です。

7) 悲観志向 対 楽観志向 (平均値：現在は 1.7、理想は 4.0)



コメントでは、ほめて育てられた学生より、叱って育てられたと思っている学生の方が多い。そのため、自分に自信が持てず、悲観的になったと述懐している。初めから諦めて前に一步踏み出さないよりは、たとえ失敗しても、可能性を信じて行動を起こす若者を育てたいものである。

① 同方向の学生 (419 名 : 94.2%) が挙げた理由の例

・(1→4) 日本語が堪能な日系アメリカ人の友達が、私の家に遊びに来た時、AERA という雑誌を読んでいた。この AERA には、「もし〇〇がおきたらどうするか」や「最近の若者の〇〇問題について」などと題名が付けられた記事が多く、どれも悲観的にかかれています。私もたまに、AERA から「こうならないようにしたい」と思う記事を見つけ、一生懸命読んでいます。この記事を読んだその友達は「起きるかどうかもわからないことを予想して怖がってどうするの？これおもしろい？もっと希望的な記事は無いの？」と聞いてきました。いま思えば、これこそ日本とアメリカの CTR の違いによるものなのだと感じます。アメリカ人の楽観的な面に気付くと、とてもうらやましいです。悲観的より楽観的な考えを持った方が、楽しく希望的にもものを見られるのではないかと思います。

・(3→4) もともと日本は儂く散ってしまう桜の花を愛してきたように、消えゆくものに美を感じる文化だと考えます。私は落ち込んだ時に観る映画はハリウッド映画と決めているのですが、理由は大半の作品がハッピーエンドで終わってくれるからです。逆に、元気のない時に邦画の名作でも観ようものならばぼ打ちのめされます。無念や理不尽さ、擦れ違いを描いた作品が多いからです。それは、悲劇のなかでこそ人間の本質や深みを見出す観方が主流だからでしょう。日本の悲劇作品を欧米に知らせた人として、花子さんという女優さんを思い出します。この方は、明治から昭和にかけて欧米を渡り歩き各地で芝居をして活躍した方です。この方の本を読んだことがあるのですが、芝居のテーマは「武士道」「切腹(ハラキリ)」などといった悲劇をテーマに人間の情念を描いたものが多いです。これらの芝居はヨーロッパではそれなりに反応が良かったようなのですが、アメリカでは理解されるのが難しかったようです。心に根付いた文化が違うことの典型例だと今になって思います。

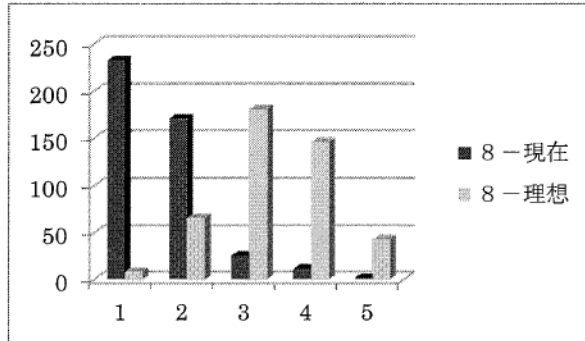
・(1→2) インターナショナルスクールの時に学校で旅行に行くことになり、白人の男の子たちは荷物や手持ちをほとんど最小限のものしか持ってきませんでした。日本人の僕たちは、何かあるといけなからといって、必ずいろんな場合を想定して様々な用意をしますが、彼らのそんな光景を見ていろいろ持ってきていた自分がバカらしくなってきました。ほんとに楽観的思考なんだとその時感じました。やっぱり、災害や自分に降りかかる病などを想定して、旅行に行く日本人はとても悲観的なんだとも感じました。しかし、旅行で何かあってからでは遅いです。実際その白人の男の子も、お腹が痛くなってしまって僕の薬を飲んで調子を取り戻しました。僕は、何かに対していろいろな対処法を考える日本人の方がやっぱり好きです。

② 多数とは違う方向の学生 (26 名 : 5.8%) が挙げた理由の例

・(1→1) 中学の時に先生が太平洋戦争のビデオを見せてくれた。そこには原爆により目を覆いたくなるような傷を負った人や壊滅的に崩れ去った建物があつた。先生は生徒に、戦争はいかに悲惨で多くの人を傷つけるものであると教えてくれた。悲観的になることによって戦争はくり返すものではないと学んだ。犠牲者が作ってくれた今の平和を感謝し、追悼の気持ちで悲観するべきだと思う。この経験により私は悲観志向は大いに賛成である。



8) 緊張志向 対 弛緩志向 (平均値：現在は 1.6、理想は 3.3)



「頑張れ」という表現は、日本人の常套句として、まだ根強く使われているようである。しかしその一方で、マスメディアなどを通してアメリカ人が大事な場面でもリラックスしようとする様子に触れ、一体どちらの態度が望ましいのかを、合理的に考えるようになった。

① 同方向の学生 (398 名：89.4%) が挙げた理由の例

- ・(2→5) ついこの前まで試合の際にはいつも頑張らなくてはと体に力が入り、なかなか練習のときのように上手く動けないということがあったが、この本を読んで、米の CTR のように Take it easy という姿勢で試合に臨むと体が軽く上手く動けたということを最近経験したので、このように考えました。
- ・(1→2) 小学生時代のマラソン大会で、私が笑顔を浮かべながら走っていると、走り終わった後に両親に「緊張感が足りない！もっと頑張きなさい！」と叱られた経験があります。確かに、重要なことをするときには、緊張感を持って臨むことが大切だと思いますが、小学生のマラソン大会などといったイベントでは、リラックスする「弛緩志向」で臨んでも構わないのではないかと思います。
- ・(1→4) 日本人は何に関しても「頑張る」ことが美德で力を抜くことが悪いことだと思っている人がとても多いと思います。私が通っていた高校はいわゆる進学校で、入学当初から大学受験を意識して授業も課題もタフでした。その上、「文武両道」だと部活まで頑張らせ、ノイローゼになる生徒は先生から「怠け者」だという目で見られました。大学受験の際は、いろんな一流大学から推薦枠がいくつも来ているのに生徒の希望も全く聞かず、例外なくすべて先生たちが蹴って、生徒に一般受験で「頑張らせ」しました。私はそんな高校でノイローゼになった 1 人で、ただ頑張るだけでは理不尽だと実感してきました。
- ・(1→5) 授業でアメリカの弛緩志向を聞いた時は、自分の中にない全く新しい考え方だったのでとても驚きました。重要な時こそリラックスしていこうという考え方は素敵だなと感じました。私はアガリ症で本番に緊張してしまい結果が残せないこともあります。そんな中弛緩志向に出会いました。やはり緊張しているより弛緩状態の方は余裕があり成功に繋がると思います。自分の考え方に取り入れたいです。
- ・(2→4) 私たちの世代はいわゆる「ゆとり世代」だ。ほかの世代からはバカにされている。よくニュースで私たちの年代の人が犯罪をすると、ネット上では、「これだからゆとりは…」「さすがゆとりは…」などといわれてしまう。また、就職率の悪さもこの不景気のせいではなく「ゆとり世代」だからと言われている。このような発言が出るということは、やはり日本人が勤勉を好み、学習時間が減った私たちの世代をバカにしているのである。

② 多数とは違う方向の学生 (47 名：10.6%) が挙げた理由の例

- ・(1→1) 日本人が常に力を入れて、頑張ろうとするのはすごく理解できる。例えば、私は twitter をやっているのだが、テスト週間は特にだが、日常から、「頑張る」「頑張ろう」というツイートはとても多い。それを見ただけでも、日本人はいつも気を張って、頑張ろうとしているというのがすごく納得ができる。「頑張る」という言葉があまり意味を持たない合言葉のようにも使われているのが現状で、必ずしも勤勉さを指すわけではないというのは否めなくもないが、この文化は、日本人に非常に合っていると私は思う。戦後急速に社会が発展し、豊かになったことや、明らかに体型が不利でも、サッカーや野球、水泳などのスポーツで世界と互角に戦っていることを考えると、日本人はやはり頑張っているのだと思う。そう考えれば、まじめに努力して頑張ることは悪いことだとは思わないし、むしろこのまま続けていくべきだと思う。よって理想の価値観は現状維持の 1 である。

#### 4. おわりに

異質な文化に触れるまでは当たり前だと思っていた自分の文化を、対比という形で客観視することで、学生は日本文化特有の思考の枠を離れ、自由な視点から周りを見直して様々なことに気付く。

確かにこうした文化論には、常に文化を正確にとらえる難しさがつきまとう。前回も触れたように、文化特有の価値観を探る各種の調査の結果には齟齬が多く、調査の限界を感じさせる場合が多い。異質な文化が抽象化され、美化されることも多い。あるいは授業で取り上げるアメリカの現象が、特にマスメディアによって報道されたものである場合、常にアメリカ人の平均的な意識や価値観の現れとは限らず、むしろ特異なものであるからこそ報道された場合もある。

そこで授業では、特異な現象そのものよりは、それについての一般のアメリカ人たちの反応から、多数が共有する価値観に迫ろうとした。それを知った上で、各々の学生が主体的な価値判断ができるように、教師が先入観を与えたり、価値判断を下したりしないように心がけた。

8項目にわたる評価の平均値が、現実については1.6、理想については3.5であったということは、日本人の価値観が、やはり左寄りのものであると認識していることと、だからといって、今後右寄りに大きく変わる必要はなく、中庸のやや右寄りでいいと判断していることが分かる。日本文化の長所を残しながら、現在最も力のあるアメリカの文化から、日本文化になかった良いものを取り入れることで、双方の長所をバランスよく生かそうとする姿勢は妥当なものであると言える。

この授業が扱う対象が異質な集団の価値観という、正確な実態解明が極めて困難なものである以上、その目的は対象文化の厳密な分析・把握というよりも、むしろ異質な文化の人たちの多くが共有する異質な価値観に触れることで、今まで当たり前のこととして無意識に適用していた思考の枠組みを取り払い、何ものにも囚われない自由で合理的な視点から物事を考えられるようにすることである。国際化や情報化が進展して、異質な文化に触れる機会が急速に増えてきた現代に生きようとする若者達に、こうした気づきを明確に体験させることは、極めて意義深いことである。

#### <参考文献>

張 競 (2011) 『異文化理解の落とし穴』岩波書店。

D'Andrade, Roy (2008). *A Study of Personal and Cultural Values*. New York: Palgrave Macmillan.

松本青也 (1994) 『日米文化の特質－文化変形規則(CTR)をめぐる一』研究社出版。

松本青也 (2010) 「大学授業科目としての北米文化論」『言語文化』第20号。

NHK放送文化研究所 (2010) 『現代日本人の意識構造 [第七版]』日本放送出版協会。

ロバート・キサラ編 (2007) 『信頼社会のゆくえ』ハーベスト社。